

三反園知事に将来の夢語る

知事賞受賞の片下君

県内の小中学生の作文を紹介するMBCラジオの番組「私たちの作文コンクール」で最も優れた作文に送られる知事賞に川床小学校4年生の片下友満君の作文が選ばれました。

三反園知事の「車座対話」の来町に合わせて、片下君が受賞のお礼を述べ、「遊漁船の船長

になりたい」と将来の夢を三反園知事に話しました。

受賞作品の「なんだ、あれは」は港を眺めていた時に見つけた魚を海に入ってしまったかまえる様子を書いた作文で、次に紹介します。



↑三反園知事から賞状の贈呈を受けた片下君（写真中央）

なんだ、あれは

長島町立川床小学校 四年 片下 友満

ぼくは、思わず声を上げてしまいました。「わっなんだあれ。」

その理由は、港の中に、白い何かがくるくる回りながらういていたからです。遠くから見ても大きい「何か」でした。「ひょうりゅう物かな。」と思いました。よく見ると魚のようです。ぼくは、急いでおじいちゃんに、「港に大きな魚が泳いでる。とりに行ってもいい。」と聞きました。いいという返事を聞いたしゅん間、ぼくは救命胴衣を持って港にかけ出しました。

ぼくの家は、港から近い高台にあり、庭から港がよく見えます。海が大きなぼくは、いつものように、海を眺めていました。その時、港に「何か」が現れたのです。

家から走って五秒くらいで港に着きました。さっきまで近くにいた魚は、すでに陸からはなれたところにいました。「エソかなあ。クロダイにも見えるなあ。」そう思いながら、ぼくは救命胴衣を着て海に飛びこみ、あみでつかまようとしてました。魚はあばれて、なかなかあみに入りません。するととつぜん、「じゃばっ。」と魚が水の中に消えました。ぼくは、体をくるくる回してさぐりました。「どこだ。」ぼくは魚がにげてしまったかと思いました。だけど、魚はまたぶかぶかとういてきました。ぼくは「今度こそ。」と力いっぱい魚の頭の方にあみをよせ、なんとかつかまえました。魚は大きすぎて、あみからはみ出しています。ぼくは、陸へ向かって泳ぎましたが、片手に魚を持っているので思うように泳げません。やっと陸に上がった時には、へとででした。

そして、改めて魚を見たぼくは、おどろいて、こしがぬけそうになりました。「スズキだ。」それは、ぼくが、一番夢中になっていた、つりたいと思っていた魚でした。それがこんな所でういているなんて思いもしませんでした。「やったあ。」

無が夢中で家まで走り、おばあちゃんに見せました。

「わあ。すごい。」

おばあちゃんもびっくりしていました。

その日のごちそうは、もちろんスズキでした。苦労してつかまえた魚は、とってもおいしかったです。